

全国

保健師長会

だより

東北ブロック活動報告 「積極的な意見交換会の場」

東北ブロックは地域が広域のため、ブロック支部長会議と研修会を年1回、同日に開催しています。今年度は、9月7日に宮城県の「エルパーク仙台」で開催しました。

午前の支部長会議では、各県支部活動について情報交換を行い、各支部とも会員の拡大に苦慮しているという話がありました。

岩手県支部からは、山形県支部を参考にして人材育成の現任教育検討会で中間期・管理期のマニュアルを作成しているという報告があり、宮城県支部からは平成22年度に全国保健師長会の研究事業で「県保健師のあり方研究」を行い、結果を部長に報告

ブロック活動報告「東北ブロック研修会」 および「東海・北陸ブロック研修会」 平成25年全国保健師長会会員数等の 動向について

全国保健師長会 会長 加藤 静子

したところ、人材育成の指示と、統括的保健師が設置されたとの報告がありました。

午後の研修会は、6県81名が参加。来賓の宮城県保健福祉部 佐々木淳次長の祝辞では、保健師活動への労いの言葉とともに、当日仙台市内で開催されていたジャズフェスティバルで日ごろの疲れと心を癒やしてくださいとのお話がありました。

全国保健師長会藤原啓子常任理事からは、東日本大震災の経験を踏まえて全国保健師長会が改訂した「大規模災害における保健師活動マニュアル」についての説明がありました。

前厚労省が「対策・健康増進課保健指導室長の尾田進氏から「地域における保健師活動指針の

ポイントとリーダーに期待すること」と題した講演があり、「指針の内容は時代に合ったものにし、心のよりどころにしてほしい」と。おのおの自治体の実情に合わせた指針に仕上げしてほしいとの話に、参加者から「淡々とした中にも熱いものを感じた」との感想がありました。

グループワークは「今後の保健師活動の方向性」指針をもとにこれから地域でどのような活動をしていきたいか」をテーマに行い、活動指針の内容に関する意見や人材育成、災害対応、統括保健師に関する現状について活発な意見交換がありました。

「他の自治体の情報や熱い思い、取り組み状況を聞いてとても参考になった」と同じ管理的な立場

東海・北陸ブロック活動報告 「ブロック研修会を終えて」

の人たちと情報交換ができて多くの気づきがあった、これからガンバローという気持ちになった」という感想が寄せられました。最後にりましたが、東北の被災地に、全国から多くのご支援をいただき本当にありがとうございます。東北のねばり強さと保健師魂で頑張っていきたいと思えます！（文責＝東北ブロック理事 小室たか恵）

8月31日、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」において「地域における保健師の活動について」をテーマに、全国保健師長会 鎌田久美子常任理事による「改訂版大規模災害における保健師活動マニュアルについて」「保健師活動指針の見直しにあたって今、伝えたいこと」と題して講演、それを基に、グループワークによる意見交換を行いました。

当日は、県内外の人たちと意見交換もできるとあって、8支部から93名と大勢の参加がありました。「保健師活動指針の見直しにあ



有意義な意見交換が行われた東海・北陸ブロック研修会

たつて今、伝えたいこと」では、それぞれの活動領域における専門性を生かした地域保健活動の必要性と保健師の活動の本質についての自覚と実践について、そして、保健師それぞれが地区に責任をもつ一方で、それを支援する人をきちんと置く必要性、行政職員への活動指針の周知と方策の検討が必要である等の話がありました。

また、グループワークでは、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われました。鎌田理事からは、「活動指針では常にやっていることが明文化されたものの、どんな活動も全部つながっている。地域を見て活動していることを住民にも伝えるとともに、人材育成を図っていくことが大事である」と

のコメントがありました。

実施後のアンケートでは、「各縣市町それぞれの立場の意見を聞くことができ、参考になるとともにパワーをもらった」「もやもやが取れてスッキリした」「これからの活動により刺激をもらった」「災害時のマニュアルを早急に見直したい」等、多くの感想があり、たいへん有意義な研修会となりました。

(文責：東海・北陸ブロック理事 水野美智子)

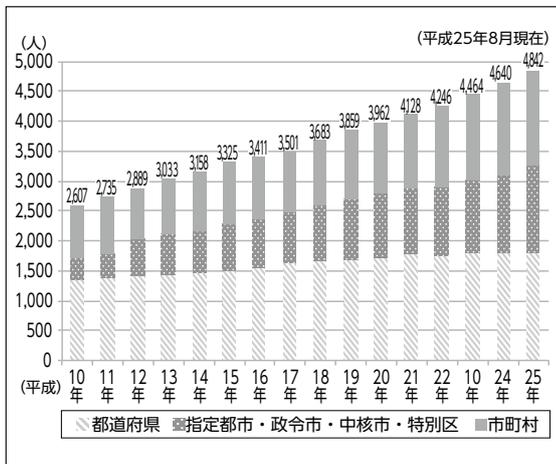
全国保健師長会会員数等の動向について

平成25年8月現在の会員数は4842人で、前年度と比べて202人増加しました(図1)。増加数は指定都市、特別区部会の168人が最も多く、次いで市町村部会の32人でした。年次推移では平成10年以降、右肩上がりに増加し、平成25年には10年度比で1.8倍になりました。

会員数に占める各部会の内訳は、都道府県部会37.4%、指定都市・政令市・中核市・特別区部会30.4%、市町村部会32.2%とほぼ同じ割合です。

係長級以上の加入率(注)は40.

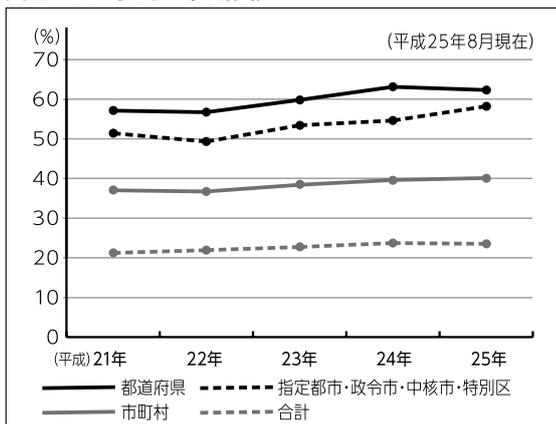
図1 全国保健師長会会員数の年次推移



1%で、部会別では都道府県部会62.3%、指定都市・政令市・中核市・特別区部会58.2%、市町村部会23.5%という状況でした。

市町村部会の加入率はここ数年20%台で推移していますが、保健師活動指針において、市町村は住民の健康の保持増進を目的とする基礎的な役割を果たすとされており、活動の担い手である保健師には大きな期待が寄せられていくところと見られます。市町村におけるいっそうの会員拡大が望まれますので、多くの保健師主務者の方に会に加入していただき、現場の実態と声を会に届

図2 加入状況の年次推移



けていただけることを願っています。

全国保健師長会では、全国の自治体において時代に求められる保健師活動が実践されるよう、活動の理論と実践の標準化・可視化に向けた調査研究や、次世代を担う若い保健師の育成支援、各ブロックのスキルアップ等に取り組んでいます。

会員一人ひとりのご意見を反映した活動をしていきたいと考えておりますので、ぜひ多くの仲間への加入をお願いいたします。

(注)平成25年保健師等活動領域調査結果との対比による。